

鳥取大学

令和4年度入学者選抜試験問題（後期日程）
（地域学部地域学科人間形成コース）
「総合問題」出題意図

問題Ⅰ

問題文は、宮沢康人『世界子どもの歴史6 産業革命期』（第一法規出版、1985年）の一部である。かつてのイギリスのパブリック・スクールにおける生徒たちの悪質ないたずらとスポーツ活動の奨励について論じている文章であり、生徒の行動と教師による生徒管理の関係について、改めて考えさせる内容となっている。合わせて、受験者が人間形成コースで学ぶことへ向けての主体性、生徒同士が経験をともにする協働性に関わる内容である。文章を理解する力や文章を構成する力、学校における教師と生徒の関係について深く考えることのできる力について問う問題である。

問1

パブリック・スクールにおけるスポーツは、もとは生徒たちが寮生活における管理や難解な古典語学習の苦痛から逃れるために、礼拝時の徘徊、犬への石投げ、博打、飲酒、喫煙、子ども同士の私闘などとともにに行っていた。しかし、教師の側は、スポーツがそのような悪質ないたずらを行う生徒たちを管理する有効な手段になると考えた。このことについて、生徒と教師それぞれが求めることの違いを正しく読み取る読解力と、読み取ったことを適切に説明する表現力をみる。

問2

パブリック・スクールの生徒たちは、スポーツ活動の主将という英雄のもとに一致団結し、同胞意識をいやがうえにも高めていた。そして、スポーツは、生徒たちの身体発達や精神発達による影響を及ぼし、さらに重要なことは集団精神の涵養に役立つと考えられた。従って、大切なのは個人技よりも集団競技であった。教師たちが考えたこのようなスポーツの意義について文章を正しく読み取る読解力、読み取ったことを適切に説明する表現力、当該問題の本質に思考をめぐらせる力をみる。

問題Ⅱ

自身の意見や推論と図表から読み取れる客観的事実とを区別する能力及び根拠を基に、自身の考えを展開しながら論理的に文章を構成し、表現する能力を問う問題である。

問1

OECD-PISA2015年調査の科学的リテラシーと生徒の科学に対する態度に関して、客観的事実を図表から読み取る力を問う設問である。

問2

現状分析について、図表から読み取った客観的事実を基にしながら、自身の考えを論理的に展開し表現する能力を問う設問である。